

指導者（保護者）として大切にしたいこと（その25）

～「続けること」～

2020年12月吉日

U12部会広島地区SV 大庭 浩資

広島県バスケットボール協会U12部会広島地区の保護者の皆様、指導者の皆様、役員の皆様、いつもお世話になっております。

広島県でも12月に入ってから、新型コロナウイルス感染者の数が急激に増え、19日の時点でついに1034人となり、初めて千人を超えました。

以前、12月における活動方針が示されましたが、その時点での状況と今の状況では明らかに異なり、とても深刻なものとなっています。

指導者も保護者もこれまで以上、子ども達の安心・安全を第一に考えながら、慎重に活動を行ってまいりましょう。

さて、今回のキーワードは「**続けること**」です。

以下に、将棋の羽生善治さんの話を紹介します。

このような話を読むたびに、一つのことを徹底的にすること、一つのことをコツコツと続けることがいかに難しいか、またいかに大切かが分かります。

ミニバスの練習も同じではないでしょうか。

特に今の状況では、ボールハンドリングやシュート練習といった、個人での練習が中心となるでしょう。バスケットボール本来の面白さはそこにはありません。

しかし、バスケットボールの技術を高めるためには、地味な練習やあまり面白くない練習こそ実は一番大切な練習で、それを継続することが上手になる近道かもしれません。そして、継続することそのものが、その選手の才能なのかもしれません。

良い動きをしているなと思うチームのコーチや監督さんに、練習方法や心構えを聞くと、皆さんが共通しておっしゃることは、「基本練習を地道に続けること」です。

まさに「**継続は力なり**」ですね。

またバスケットボールに限らず、学校や家庭での学習においても、趣味や習い事等においても、同じようなことが言えると思いますが、保護者の皆様や指導者の皆様はどう思われるのでしょうか？

「才能とは続けられること 強さの原点」

羽生善治著より抜粋

将棋に限らず、勉強でもスポーツでも仕事でも、大切なことは「継続すること」だと思っています。

以前の私は、才能は一瞬のひらめきだと思っていました。しかし今は、十年、二十年と、一つの物事をずっと長く続けること、継続することが、一番の才能ではないかと思います。

奨励会の若い人たちの対局を見ていて、ある場面でパッとひらめく人はたくさんいます。ですが、そういう人よりも、あまりシャープさは感じられないけれども、難しい場面に直面したときに、何時間も考え続けることができる、あるいは同じスタンスで将棋に取り組んでいける人のほうが、結果として上に上がっていく印象があります。

もちろんパッとひらめくこと、たくさんの手が読めることも才能の一つですが、地道に、着実に、一步一步進み続けることができるということが一番大切なことであり、なによりの才能ではないかと思うのです。

モチベーションを維持したり、物事に流されず変わらない情熱をずっと持ち続けたりすることは、簡単なことではありません。

そのためには、やりがいを感じた、やっていて面白かった、発見があった、あるいは自分には思いもよらないことがあった、そういった意外性を感じられることも、続ける要素として大事なことはないかと思っています。